



1学期が終了しました。今学期も感染拡大が続く中で、様々な学校行事や学年行事の中止や延期、変更を余儀なくされました。しかし、そんな中でも本校の生徒達は、常に笑顔を忘れず、明るく学校生活を送ってくれました。不安やストレス、行事の中止や変更による落胆にも負けずに、与えられた環境の中で前向きに元気に頑張ってくれる生徒達に頭が下がります。本校の教職員は、そんな生徒達に甘えることなく、彼らに少しでも多くの感動と充実感を与え、よい思い出を作ってもらえるよう、今後も知恵を絞って取り組んでまいります。

さて、終業式は中学校生活において大きな「ふしめ」のひとつです。「ふしめ」とは、それまでの自分を振り返って成果を確認し、新たな目標を立てて再スタートする、とても大切な時期です。そして「ふしめ」の時こそ、それまでの自分を一度リセットして、新しい自分に大きく生まれ変わる最大のチャンスです。短い秋休みではありますが、生徒達には、ぜひ「ふしめ」をしっかり意識して気分をリフレッシュし、新たな気持ちで2学期を迎えてほしいと思います。

【吹奏楽部が大活躍！】

ご報告が大変遅れてしまいましたが、本校の吹奏楽部が7月29日（木）に宇都宮市文化会館で行われた栃木県吹奏楽コンクールで見事金賞を受賞しました。さらに、8月9日（月）に行われた東関東吹奏楽コンクールの代表選考会でも代表に選出される快挙でした。私も会場で聴かせてもらいましたが、他校の楽曲とはひと味違う、和風テイストのとても素敵な曲で、演奏も素晴らしかったです。



演奏した「折鶴」という曲は、前顧問の加藤明里先生が、部の生徒達の良さを引き出すのにぴったりの曲を選曲し、後を継いだ芳村先生と生徒達で完成させた、まさに三者で作上げた傑作だと思います。茨城県で行われた東関東大会では、緊急事態宣言のため、演奏を録音したCDでの参加になってしまい大変残念でしたが、それでも見事銀賞を受賞しました。おめでとうございます！吹奏楽部の生徒達には、これからも逆境に負けることなく、素敵な演奏を聴かせてほしいと思います。

【いじめゼロ集会】～ いじめのない、居心地のよい学校にしよう！～

宇都宮市では、全小・中学校において、毎年5月と10月を「いじめゼロ強調月間」と位置づけ、いじめ問題への意識を高め、いじめの根絶を目指すための啓発を行っています。本校でも10月6日（水）に今年度2回目の「いじめゼロ集会」をテレビ放送で実施しました。

今回は、いじめについて考えるための動画を視聴しました。某中学校の演劇部の生徒達が作成したいじめをテーマにした作品です。同じ中学生が演じる作品を見ることで、生徒達がいじめを他人ごとではなく自分の問題としてとらえ、いじめをなくすことの大切さを再認識してくれることを期待しました。生徒達は真剣に動画を視聴し、感想を書いたり発表したりしていました。

学校では、年4回実施するアンケート調査や担任による教育相談、スタンダードダイアリー等を通して、「いじめの早期発見・早期対応」に努めるとともに、「いじめの未然防止」を第一に考えて取り組んでいます。今後も「よりよい人間関係づくり」「人権感覚の高揚」「認め合い、励まし合い、助け合う学級づくり」に引き続き全力で取り組んでまいります。保護者・地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

【「もう」と「まだ」】 ～柔らかなものの考え方～

ちょっと前の話になりますが、夏休み明け全校朝会の話の中で、「もう」と「まだ」という話をしました。

コップいっぱいに入っているお茶を見せて、半分飲んでから、再びそのコップを見せて聞きました。

「『もう半分しかない。』と感じますか？『まだ半分ある。』と感じますか？」

同じ「半分」なのに、人によって「もう」と「まだ」に分かれてしまう。「もう」と「まだ」という言葉は、その人の感じ方やその時の気持ちによって使い分けられます。逆に言うと、この言葉の使い方次第で、前向きな気持ちになれたり、マイナスの方向に考えてしまったりもするということです。

ひとつの物事は、たいてい2つの見方、とらえ方ができます。その時々で、少し柔らかな考え方ができるといいと思います。「もう」と「まだ」を上手に使い分けることで、自分を励ましたり、心に余裕を持たせたり、奮い立たせたりすることができるいいと思います。柔らかなものの考え方をすることで、自分を追い込み過ぎず、失敗もプラスにできるような生き方を学んでほしいと思います。

テストの日が間近に迫ってきたとき、保護者の皆様はお子様にとどちらの声かけをしていますか？

「テストまで、もう3日しかないのよ。何やってるの。もっと本気で勉強しなさい！」

「テストまで、まだ3日あるわよ。大丈夫。あせらないでじっくり取り組みなさい！」

お子様の性格や状況に合わせて、お子様の力を引き出せるよう上手に使い分けてみてください。

【1学期終業式】 ～もらったときこそ…通知表～

終業式といえば「通知表」!! 生徒達にとっては数字や〇の数など、結果が気になるところです。特に、1年生にとっては初めての中学校の通知表です。テストの成績順位が出るのも初めてでしたし、5段階の評定も初めてです。期待でわくわく、不安でドキドキ、様々な思いで手にしたことでしょう。

しかし、結果はもちろん大切ですが、「そこに至る過程」も重視しなければなりません。通知表は、ある意味で、先生方から生徒一人一人にあてたメッセージでもあるのです。通知表の内容にこめられている「担任の先生の気持ち」をぜひ、読み取ってもらいたいと思います。

《通知表といえば・・・》

「歓喜・驚愕・後悔・消沈」生徒にとっては、まさに学期末の人生模様と言えるでしょう。しかし、ちょっと冷静になって考えてください。生徒にとって通知表とは・・・

【1】自分を知るよいチャンス！

学習面なら現時点での自分の到達度・定着度を、生活面なら自分の長所・短所をしっかりと把握し、成果や課題を明確にした上で、2学期の新たな目標を立ててほしいと思います。

【2】「説明責任」を果たすことが大切！

生徒の皆さんは、親に対して、なぜこういう結果になったのかを自分できちんと説明することが大切です。その結果を出したのは自分自身です。これまでの自分がやってきたことに責任を持ってほしいと思います。

【保護者の皆様へ】

お子様の通知表を見たとき、どんな言葉をかけていますか。

数字や〇の数を見て、ほめたり、おだてたり、喝を入れたり、あの手この手でお子様のやる気を出させようと苦労している方もいると思います。しかし、これだけはお願いします。

保護者の皆様も、結果だけを重視しないでください。それまでの過程をお子様と一緒に振り返り、じっくりと話し合ってください。結果に至るまでのお子様の頑張りや努力を見ていたなら、まずはそれを十分に認め、ほめてあげてください。そして励ましてあげてください。また、保護者の皆様にも、担任の思いを読み取っていただければ幸いです。教師と保護者が理解し合いながら、同じ思いで生徒達に向かい合っていくことが大切です。どうぞよろしくお願いいたします。